



「奈良県医師会透析部会」

第42回奈良透析学術総会が

1月28日(日)12時に

奈良ロイヤルホテル

第1会場：鳳凰の間（ろ）（は）

第2会場：ロイヤルホール

にて開催されます。

吉岡院長が総会の会長となり、

当院透析スタッフが多数参加し、

役割を担当いたします。院内から

8演題が発表いたしますのでご紹介

いたします。



総括	吉岡 伸夫(院長)	Dr.	臨床工学技士長	野口 幸	T
Ns.総括役・表彰補佐	渡邊 美智子(師長)	Ns.	発表者	赤澤 愛	Dr.
座長	高藤 節子(主任)	Ns.	発表者	市原 恵美子	Ns.
座長	二神 徳明(副主任)	T	発表者	西谷 菜美	Ns.
第1会場責任者・アナウンス	山岡 みゆき(師長補佐) R	Ns.	発表者	大宮 優	T
第1会場アナウンス	植田 敦子	Ns.	発表者	山田 早悠里	T
第1会場映写	松田 澄人	T	発表者	萩原 誠一郎	T
第1会場映写	御明 哲平	T	発表者	小田 修平	理
第2会場責任者・アナウンス	粟野 麻帆 R	Ns.	発表者	岡村 早香	栄
第2会場アナウンス	益田 百合子	T	案内①	衣川 銘 R	Ns.
第2会場映写	松田 竜馬	T	案内②	中川 実保	Ns.
第2会場映写	佐々木 貴司	T	案内③	藤村 聡美	Ns.
受付	林坂 忠温	Ns.	案内④	薩摩 大士	Ns.
受付	藤本 真弓 R	Ns.	案内⑤	安井 暁子	Ns.
受付	河内 久視子	Ns.	スライドサブ	明石 清忠(チーフ) R	T
受付	中川 美佐子	T	スライドサブ	大西 順也	T
受付	川西 大	T	第1会場座席案内	寶田 大貴	Ns.
受付	田村 尚紀	T	第1会場座席案内	藤田 善子	Ns.
受付サブ	平瀬 裕己	T	第1会場座席案内	西 秀人 R	Ns.
受付サブ	市谷 和也	T	第2会場座席案内	油谷 知輝	Ns.
受付サブ	中島 大志	T	第2会場座席案内	澤谷 雄一 R	Ns.
受付サブ	溝口 陽裕	T	第2会場座席案内	谷本 尚愛	T
懇親会アナウンス	小林 志保(院長秘書・クラーク)				

「奈良県医師会透析部会」
第 42 回奈良透析学術総会

プログラム
予稿集

平成 30 年 1 月 28 日（日）12 時開始

奈良ロイヤルホテル

第 1 会場：鳳凰の間(ろ)(は)

第 2 会場：ロイヤルホール

奈良市法華寺町 2 5 4 - 1

TEL 0742-34-1131

会 長

医療法人康仁会 西の京病院

吉岡 伸夫

領域：臨床研究

第1会場

看護師1 12:20~

(12:48~13~)

維持透析患者の運動継続に向けた取り組み

(医) 康仁会 西の京病院 プラザ透析センター

○西谷菜美、眞子沙織、鎌田圭子、藤本真弓、西秀人、高藤節子、渡邊美智子

【目的】近年、透析患者への運動療法が推奨されているが、運動は自主性が要求されるため継続することが難しい。そこで今回、理学療法士と看護師が共同で運動療法の指導を行ない、継続できているか確認するために、運動管理ノートを作成した。運動開始10ヵ月で継続状況と運動の効果を評価した。

【対象と方法】対象は運動療法を希望した透析患者59名(男性32名、女性27名)平均年齢69.5歳、平均透析歴115.1ヶ月。方法は理学療法士と看護師で体力測定と勉強会、運動メニューの作成を行い、運動状況を把握するためにオリジナルの運動管理ノートを作成した。ノートには、運動のイラスト、運動回数を記載し、質問事項は来院時に看護師より回答した。10ヶ月後にアンケート調査を全員に実施した。

【結果】調査の結果、運動の継続者は59名中27名(46%)。継続できた理由は「健康維持のため」13名(48%)で、「運動管理ノートがあったから」は8名(30%)であった。運動の効果については「歩きやすくなった」11名(40%)であった。運動管理ノートは「良かった」18名(67%)で、理由は「パンフレットがわかりやすい」「スタッフのコメントが励みになる」という意見があった。理学療法士の関わりは「良かった」が21名(78%)で、理由は「体力測定の説明会が聞けた」であった。今回、離脱者は32名(56%)で、離脱理由は「合併症による体調不良のため」11名(34%)、「運動がおっくうになった」3名(9%)、「他の運動をしている」3名(9%)の順であった。

【結論】理学療法士と共同で指導したことで、約半数の患者が運動を継続することができた。体調不良が原因で継続できなかった患者に対しては、個々に合った運動メニューや体調不良時の看護師の関わりが今後の課題と考える。

発表者：西谷 菜美 (ニシタニ ナナミ)

職種：T

3語のkey Words：透析患者、運動療法、運動管理ノート

代表連絡者氏名：吉岡 伸夫 (ヨシオカ ノブオ)

所属住所：奈良県奈良市六条町102-1

電話番号：0742-35-2500

FAX番号：0742-35-1160

Eメールアドレス：p_touseki@nishinokyo.or.jp

フットケアの質の向上に向けた取り組み
～アクションリサーチ法を用いて～

(医) 康仁会 西の京病院 透析センター¹ 内科²

○市原 恵美子 (N)¹、植田 敦子¹、中川 実保¹、衣川 銘¹、山岡 みゆき¹、
渡邊 美智子¹、赤澤 愛²

【目的】

透析患者は足病変合併のリスクが高く、重症虚血肢に至ると予後は著しく不良であり、その救肢のためにはフットケアは欠かせない。今回、アクションリサーチ法（以下 AR 法）を用いてフットケアに対する看護師の意識の変化を調査した。

【対象と方法】

AR 法とは、現状における問題の明確化・計画・実施・評価・内省のサイクルを繰り返し実施することである。新人からフットケア経験者に至る透析看護師 13 名を対象とし、透析時に実施するフットケアの際、AR 法を導入した。実施した患者は、独居や座位保持が困難なため足浴ができない患者 9 名であった。

【結果】

第 1 サイクルで、足浴場所の確保が難しくベッド配置変更もできないという評価・内省から、第 2 サイクルではベッド上でのシャボンラッピング法を採用し実施した。2 週間継続後の評価で、患者から「気持ちがいい」「こんな方法もあるのね」と喜ばれた。実施後、カンファレンスで評価・内省を行うことで、看護師の興味や関心が高まった。

【結論】

AR 法を用いてフットケアの質の向上に取り組んだ結果、問題の焦点が明確になった。更にサイクルを繰り返すことで、看護師の意欲向上につながるものと考えられる。

Key Words ; 透析患者 フットケア AR 法

(領域) 領域研究
(代表連絡者) 市原 恵美子 (イチハラ エミコ)
(所属住所) 奈良市六条町 102-1
(電話) 0472-35-1121
(FAX) 0742-35-6220
(E-mail) g_touseki@nisinokyo.or.jp

演題名：半固形栄養剤の導入により、在宅復帰を果たした維持透析患者の1例

(医) 西の京病院 栄養管理部¹、看護部²、薬剤部³、内科⁴

○岡村早香¹ (管理栄養士) 岩崎早耶¹ 黒岩直美² 久保佐千子³ 武井誠⁴ 吉岡伸夫⁴

【症例】52歳男性。平成12年に糖尿病指摘されていた。平成18年6月脳梗塞発症後寝たきりとなり、平成19年6月胃瘻を造設された。平成27年1月5日糖尿病性腎症による腎不全のため血液透析に導入された。透析可能な療養病棟を希望され、同年4月30日当院に転院した。

【入院後経過】入院時レナウェル3を使用していたが、低Alb血症及び低P血症のため平成27年10月21日にNST介入となった。NST介入時身長170cm, DW48.0kg, BMI16.6, TP5.2g/dL, Alb2.5g/dL, P1.5mg/dL。投与エネルギーと蛋白質の増量のため、メイバランスHP1.5(1400kcal、蛋白質46g)を併用し3時間/回で注入した。在宅での栄養管理を考慮し、注入時間短縮のためラコールNF配合経腸栄養半固形剤(1200kcal、蛋白質53g)に変更した。その結果、注入時間が3時間/回から20分/回に短縮され、全身状態もよくなったことで平成28年1月18日に退院となり、在宅復帰を果たした。入院時のDW48.0kgは退院時51.5kg(h-ANP31)、同様にAlb2.5から2.9g/dL, P1.5から4.7mg/dLに改善した。

【結論】経管栄養管理中の透析患者が在宅へ復帰をするために、半固形栄養剤は有用であった。また半固形栄養剤を使用することで短時間での必要栄養量の充足が可能となり、リハビリの時間も確保されADLが向上、介護者の負担軽減にも役立った。

Key Words ; 透析患者、半固形栄養剤、在宅復帰

(領域) 症例
(代表連絡者) 岡村 早香 (オカムラ サヤカ)
(所属住所) 奈良市六条町102-1
(電話) 0742-35-2500
(FAX) 0742-35-11600
(E-mail) g_eiyo@nishinokyo.or.jp

タイトル：透析患者における運動療法の効果

(医) 康仁会 西の京病院 リハビリテーション科¹⁾、(医) 康仁会 西の京病院 プラザ透析センター2、(医) 康仁会 西の京病院 内科³⁾

○小田 修平(理学療法士)¹⁾、明道 知巳(理学療法士)¹⁾、本村 亜美(理学療法士)¹⁾、中野 実乃里(理学療法士)¹⁾、由良 嘉啓(理学療法士)¹⁾、高藤 節子(N)²⁾、渡邊 美智子(N)²⁾、赤澤 愛(D)³⁾、井上 貴文(D)³⁾、吉岡 伸夫(D)³⁾

【目的】

昨年度当院外来透析患者を対象に運動機能評価を実施した結果、片脚立位時間の低下が顕著であり、透析患者のバランス能力が低下していることがわかった。バランス能力の低下は転倒・骨折につながる可能性も高いことから、バランス能力向上を目的とした運動療法を実施しその効果を判定した。

【方法】

外来透析患者 25 名(男性 15 名、女性 10 名、平均年齢 67±10 歳、BMI 23.4±3.7、平均透析歴 93.9 か月±72.4 か月)を対象に、バランス能力向上を目的とした運動療法を透析前に週 3 回を 6 週間実施。効果判定のために 6 m 歩行時間と片脚立位時間の変化を比較、検討した。

運動療法の内容は、主に柔軟性向上目的とした①タオルギャザー、②ボール転がし、また主に筋力強化目的とした③つま先立ち、④膝伸ばしの 4 種類実施し、適時理学療法士により運動方法の指導を行った。

【結果】

6m歩行時間は 4.20 秒から 3.84 秒と短縮し、有意差を認めた ($p < 0.05$)。片脚立位時間は 23.95 秒から 29.59 秒と保持時間の延長は認めなかった ($p > 0.05$)。

【結論】

本研究において、適切な運動療法は外来透析患者の歩行スピードを向上させ、片脚立位時間延長の改善傾向を示すことから、バランス能力向上の効果があったことが示唆された。

- (1) 領域 : 臨床研究
- (2) 筆頭発表者 : 小田 修平(オダ シュウヘイ) その他:理学療法士
- (3) Key word : 透析患者、運動療法、バランス
- (4) 代表者連絡者氏名 : 明道 知巳(ミョウドウ トモキ)
所属住所 : 奈良市六条町 102-1
電話番号 : 0742-35-1195
FAX番号 : 0742-35-1160
E-メールアドレス : t_myoudou@nishinokyo.or.jp

当院透析患者の整形外科受診状況から考えること

(医) 康仁会 西の京病院 内科¹ 泌尿器科² 整形外科³ 透析センター⁴ 臨床工学科⁵
○赤澤 愛 (D)¹、吉岡 伸夫¹、武井 誠¹、林 知行²、人羅 俊明³、内藤 浩平³、
山岡みゆき⁴、渡邊 美智子⁴、野口幸⁵、高比康臣¹

【目的】骨関節疾患が多いとされる透析患者において、どのような状況で整形外科受診となっているのかは明らかでないため、整形外科との密接な連携がある当院での状況を調査したので報告する。

【方法・対象】

2016年11月1日から2017年10月31日までの1年間に当院で維持透析を実施し、1回以上整形外科を受診した患者228名(男性134名、女性94名、平均年齢73歳、平均透析歴108ヵ月)を対象とし、整形外科受診となった理由(部位や疾患)をレトロスペクティブに調査した。

【結果】1年間に整形外科を受診した228名は当院維持透析患者全体の63%であった。整形外科受診となった部位は腰部・腰椎が61人と最多で、次いで足の52人、膝の30人であった。また疾患では廃用症候群(リハビリ)が63人と最多で、次いで新規圧迫骨折を除く脊椎関連が47人、新規骨折が41人、閉塞性動脈硬化症(足病変)が31人であった。

【考察】骨折率は1年間で透析患者全体の11%と高く、部位や疾患からは運動機能が低下している可能性が高い状況が推察される。これらの予後を左右しうる透析患者の現状から、整形外科とのさらなる強い連携が必要と考える。

Key Words ; 透析患者 整形外科 骨折

(領域) 臨床研究

(代表連絡者) 赤澤 愛 (アカザワ アイ D ; 医師)

(所属住所) 奈良市六条町 102-1

(電話) 0742-35-2500

(FAX) 0742-35-1160

(E-mail) ai_love_slk@hotmail.com

第2会場 投12 12:57~

(13:11:3~)

第42回奈良透析学術総会・一般演題抄録

領域（臨床研究）

維持透析患者における体組成分析装置(BCM)の体液量管理の有用性

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

○山田早悠里(T)¹⁾ 萩原誠一朗¹⁾ 中川美沙子¹⁾ 二神徳明¹⁾ 明石清忠¹⁾ 野口幸¹⁾
赤澤愛²⁾ 渡邊美智子²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【緒言】

BCMは非侵襲的に体液量を測定することができ、over hydration(OH)として表示される。今回、当院透析患者にBCMでOHを測定し各パラメーターとの関係を検討したので報告する。

【対象・方法】

当院透析患者99名を対象とした。方法は透析治療前後にOHを測定した。

検討項目は、透析前OHと収縮期血圧(SBP)、拡張期血圧(DBP)、透析前心胸郭比(CTR)、心エコー(IVC、LVDs、LVDd、IVS、PWT、EF)、体重増加量。透析後のOHとSBP、DBP、hANPとの関係を検討した。

【結果】

透析前OHはSBP($r=0.3$ $P<0.01$)、DBP($r=0.3$ $P<0.05$)に正の相関、心エコーのPWT($r=0.4$ $P<0.01$)と体重増加量($r=0.4$ $P<0.01$)に対し正の相関を認めた。また透析後のOHではhANP($r=0.3$ $P<0.01$)で正の相関を認めた。

【結語】

BCMによるOHの測定は、体液量に影響を与えるパラメーターと相関したことから透析患者のドライウェイトを設定するために有効な検査であると示唆された。

(Key Words) BCM OH 体液量管理

(代表連絡先) 山田早悠里(ヤマダ サユリ)

(所属住所) 奈良県奈良市六条町102の1

(電話) 0742-35-1121

(FAX) 0742-35-2106

(E-mail) m_noguchi@nishinokyo.or.jp

第42回奈良透析学術総会・一般演題抄録

領域 (症例)

CLI を発症した透析患者に対し LDL-アフェレシス (LDL-A) を導入した 4 症例

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

○大宮優 (T)¹⁾ 田村尚紀¹⁾ 川西大¹⁾ 二神徳明¹⁾ 明石清忠¹⁾ 野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾
渡邊美智子²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【目的】 CLI を発症した透析患者に対して LDL-A を導入し SPP、下肢動脈血流速度 (PSV) で評価した 4 症例を報告する。

【症例】

症例 1 は 78 歳女性。両下肢の浮腫と冷汗が出現したので EVT を行った。術後症状は軽減したが再度、冷汗・下肢痛を認めたので LDL-A を導入した。SPP、PSV は改善し現在も経過良好である。症例 2 は 59 歳男性。足趾の潰瘍形成を認め EVT を行い LDL-A を導入した。SPP、PSV は改善したが潰瘍形成が進行したので部分切断となった。術後は経過良好である。

症例 3 は 67 歳男性。両下肢の疼痛が出現。EVT による治療を拒否したので LDL-A を導入した。PSV は上昇したが SPP は改善せず敗血症となり死亡した。

症例 4 は 81 歳女性。両足趾の潰瘍が出現。血管造影で高度石灰化を認めたので EVT 困難と判断し LDL-A を導入した。PSV は改善したが SPP の上昇は認められず下肢切断となった。

【結語】

透析患者の CLI は治療に難渋するケースが多いが、EVT と LDL-A を併用し、さらに SPP の値が上昇する症例では比較的良好な経過を辿る可能性があるとする唆された。

(Key Words) LDL-アフェレシス CLI EVT

(代表連絡先) 大宮 優 (オオミヤ ユウ)

(所属住所) 奈良県奈良市六条町 102 の 1

(電話) 0742-35-1121

(FAX) 0742-35-2106

(E-mail) m_noguchi@nishinokyo.or.jp

第2会場 投士1 12:20~

(12:34~3~)

第42回奈良透析学術総会・一般演題抄録

領域（臨床研究）

透析用洗浄剤プロソルブ・ステラケアの消毒性能と経済効果

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

○萩原誠一郎(T)¹⁾ 中川美沙子¹⁾ 二神徳明¹⁾ 明石清忠¹⁾ 野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾

渡邊美智子²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【目的】現行の12%次亜塩素酸Na・過酢酸洗浄剤から次亜系洗浄剤プロソルブと過酢酸系洗浄剤ステラケアに変更し、その消毒性能と経済効果を比較した。

【方法】2016年10月から2017年10月までの期間、前洗浄剤からプロソルブとステラケアに変更し毎月のET、生菌数の測定と変更前後の配管末端コンソールのカプラ出入口で蛍光染色によるバイオフィーム測定を行った。またコンソール内部部品を分解し肉眼観察による除錆効果を確認した。経済性については洗浄時間とそれに伴う電力量とRO水量を比較した。

【結果】ET値と生菌数はともに検出感度以下を維持した。また洗浄剤変更後の蛍光染色ではバイオフィームが減少し、錆の付着も観察されなかった。経済面では洗浄時間が316時間/月から267時間/月で15.5%減少し、電力量が24490.0kw/月から20692.6kw/月となり15.5%減少、RO水量も1469400L/月から1241550L/月となり15.5%減少した。

【結語】プロソルブ、ステラケアは、現行の洗浄剤に比べてバイオフィームの形成を抑制することから透析液清浄化を維持するために有効である。また、経済的にも効果があることが示唆された。

(Key Word) プロソルブ、ステラケア、洗浄

(代表連絡先) 萩原誠一郎(ハギワラ セイイチロウ)

(所属住所) 奈良県奈良市六条町102の1

(電話) 0742-35-1121

(FAX) 0742-35-2106

(E-mail) m_noguchi@nishinokyo.or.jp